

川崎港見学会の記録



記録者 川崎の産業観光を支援する会 根岸 雅明

2021.11.24

新造船かもめによる川崎港の見学会の記録

【概要】 令和3年3月に川崎港の巡視船「かもめ」の後継として新しい巡視船「かもめ」が誕生しました。

コロナ禍も幾分収まり、このたび定員25名のところ10名限定で川崎港内の見学会の機会をいただきました。ミニツアーの手始めとして、役員及び工場夜景のガイドたちで参加しました。今後、コロナ禍の収まり具合をみながら、一般市民の公募をして川崎港の見学会を検討していきたいと考えています。

見学に先立、港湾局の赤羽係長よりご説明資料をいただきました。この日は風があり波が高く沖合の東京湾の運行は控えて、京浜運河、境運河、大師運河を巡り海から臨海部の工場群を見学しました。

乗船はいつもの千鳥町の客船ターミナルではなく、東扇島の防災浮棧橋から乗船しました。理由は千鳥町の客船ターミナルでは新造船かもめと棧橋の段差があり、一般のお客さんでは危険だという事で東扇島の防災浮棧橋を利用しました。

この浮棧橋は災害時における帰宅困難者や緊急物資の輸送拠点として整備されたそうです。

川崎港の見学もほぼ2年ぶりです。川崎港の変貌ぶりと変わらないところなどを見学できました。水江町と東扇島を結ぶ臨港道路工事の進捗状況も見られ、橋脚もだいぶ高さが上がってきました。

大師運河や境運河などの航路を巡行していただき、川崎港の工場群をつぶさに見学することができました。普段あまり見られない視点からみられてとても興味深かったです。夜景ガイドの方々には昼間の視点で工場群を観られて新たな発見もあったのではないのでしょうか。この経験を生かしていただければと思います。

川崎市港湾局の赤羽係長様及び関係者の皆様にはご案内、運行に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして皆様方のご参加ありがとうございました。

以下はその記録です。

【日付】 令和3年11月24日（水）10:00～11:30

【目的】 川崎港の現状を知り、整備状況やその役割等を学ぶ。

【参加者数】 10人

【その他】 川崎市港湾局川崎港管理センター港営課Tel044-277-5533

【コース概要】 川崎駅東口バス乗り場12番9:00…東扇島北公園…徒歩約10分…防災浮棧橋10:00～京浜運河～境運河～京浜運河～大師運河～11:30 防災浮棧橋着

【航路ルート図】



赤線のルートを航行。京浜運河と境運河と大師運河を巡る。
ガーミンデータより。

【写真】



川崎駅東口バス乗り場 12 番から東扇島循環のバスに乗り東扇島北公園入口で下車。



バス停から徒歩 8 分程で防災浮棧橋に到着。





新造船かもめ。長さ 17.2m、幅 4m、総トン数 19 トン、最大搭載人数（船員 2 名、旅客 25 名）、速力 24.5 ノット（1 ノット＝約 1.85km/h）のスペックだが 27 ノット（時速 50 キロ）まででるようだ。パンフレットより。



建造したのは尾道の瀬戸内クラフト(株)との事。京浜運河は波があったが揺れはあまり感じられなくて、とてもスピードがあり、安定感のある快適な船だと感じた。



座席シートがリクライニングになってフラットの状態になるそうです。災害時のけが人を横にすることができる設備。





乗船前に港湾局の赤羽係長よりご説明をお聞きする。



横浜方面に向かって進む。前方の煙突は東扇島火力発電所。



水江町側の臨港道路の橋脚建設中の様子。



東扇島側の臨港道路の橋脚建設中の様子。



東洋埠頭と川崎天然ガス発電



川崎天然ガス発電所の夜景風景。ホームページより参照。

川崎天然ガス発電所

川崎バイオマス発電所



三井埠頭。アンローダー（船から荷揚げする機械）と背後の煙突はJR発電所。



日清製粉鶴見工場



三菱化工機



白石運河 海賊船の修理か。



白石運河の東亜鉄工。前方に見える船は川崎市港湾局の設計基準に満たなかった船だとか。尾道の造船所に再発注して納期が遅れたとの事。



境運河から京浜運河に戻る。



東扇島火力発電所



東扇島の東公園と川崎航路トンネルの換気塔



東京アクアラインの風の塔を望む。



浮島のコンビナート群



ローディングアーム…タンカーから LNG（液化天然ガス）や LP ガスなどを荷揚げする設備





大矢会長より乗船時の説明で感じたことのコメント。

乗船するたびに新たな知見があります。

- ・つばさ橋から横浜港・川崎港への入港は原則5分間隔で許可していること。
- ・護岸から荷揚げのために突き出している栈橋は、業者から市に使用料をおさめていて、それを船などを購入する資金に充てていること
- ・護岸から突き出てコンクリートの階段上になっているところは、満潮時、海の下に隠れるようになっていること。でないと、埋立ととられ違反になる。
公有水面埋立法による。
- ・一番面白かったのは、JFEのガスタンクの屋根部分。当初、横浜側が緑色に塗られていたのに、川崎側が真っ黒くなっていて、それに川崎市長が差別だとクレームを入れて川崎側は今の色になったとのこと。後日、横浜から川崎に向かう高速にて、今一度確認してみます。



大師運河を巡る



多摩運河の向こうは多摩川。運河は多摩川から流れてくる土砂の影響で浅くなり、定期的に浚渫するとの事。



旭化成ケミカルズ…2019年にリチウムイオン電池の開発者でノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんはここで働いていたとの事。



中央の建物は日本ゼオンの研究所。



根本造船所



京浜運河から大師運河を巡って防災浮棧橋に戻り、見学会終了。

見学会終了後、解散し時間の都合のとれる方たちと食肉流通センターで昼食をとり、何人かで東扇島トンネルを歩きました。

波があり沖合の東京湾の見学はできませんでしたが、天気に恵まれ、川崎の工場群をまじかに見ることができ、とても有意義な見学会でした。関係者の皆様方には改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。